

COVID-19 流行下での当院における呼吸機能検査の感染対策について

◎川上 麻世¹⁾、伊佐 和貴¹⁾、島袋 綾子¹⁾、野中 実可子¹⁾、新垣 知里¹⁾、山内 恵¹⁾
琉球大学病院 検査・輸血部¹⁾

【はじめに】2020年初め、国内で新型コロナウイルス感染症（COVID-19）患者が確認されて以降、現在にいたるまで流行が持続している。呼吸機能検査は、COVID-19の感染リスクの高い検査と考えられることから、患者および検査者の安全を確保するために飛沫およびエアロゾル感染を考慮した強固な感染対策が求められる。今回、COVID-19流行下での当院における呼吸機能検査の感染対策の取り組みについて報告する。

【対策】COVID-19感染流行を受け、患者には検査室の入室前にサージカルマスク着用、検温、アルコール手指消毒を促し、問診(咳・熱の有無)を行った。検査実施時、検査者は白衣、サージカルマスク、フェイスシールドの着用を徹底し、患者ごとにディスポーザブルマウスピース、フィルター（細菌・ウイルスろ過率99.0%）を使用した。検査終了後は患者が触れた箇所（呼吸管、椅子、ドアノブ、身長体重計測器など）と検査者が触れた箇所（バーコードリーダー、キーボードなど）を消毒用クロスで清拭を行った。また、2020年4月の緊急事態宣言下では呼吸機能検査は原

則術前検査のみとし、検査受入れを制限した。2020年6月以降は通常予約体制としたが、前述の感染対策は継続した。2021年1月以降感染状況の悪化に伴い、感染対策強化策として个人防护具（ディスポーザブルガウン、N95マスク）の追加および空気清浄装置の導入を行った。

【考察】感染対策のため、検査の事前準備や機器清掃にかかる時間が加わったが、手順を決めておく事で効率よく行うことが可能であった。しかしながら、毎回の防護具着脱が必要となったことで他の検査との兼務が困難となった。また、検査前に全患者のPCR確認が行われていないことが課題点といえる。刻々と変化する感染状況に応じて新たな対策を取り入れ、検査者が就業制限を余儀なくされることを回避することで安定した呼吸機能検査を提供することに繋がると考えられる。

【結語】呼吸機能検査は飛沫感染のリスクが高い検査であるが、患者および医療従事者への感染防止対策に努めることが、呼吸機能検査の維持管理に重要と考えられる。

連絡先：琉球大学病院 098-895-3331（内3330）